

特別講演

座長：東江由起夫（新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科 教授）

2020年東京パラリンピックが目指す無限の可能性



中森邦男

（公財）日本障がい者スポーツ協会、日本パラリンピック委員会 参事

パラリンピックの発展

パラリンピックは第2次世界大戦で脊髄を負傷した兵士の社会復帰のために、リハビリテーションにスポーツを取り入れたことが発端となっています。1960年の第1回大会は車いすの障がい者のスポーツとして始まりましたが、5回大会以降、回を重ねるごとに、手足の切断や機能障がい、視覚障がいや知的障がいの人が参加し、実施競技や参加選手数も大きく増やし今日に至っています。

パラリンピックの価値が大きく高まったきっかけは、オリンピック・パラリンピックの統合開催の2008年の北京大会からで、「国際オリンピック委員会と国際パラリンピック委員会（IPC）が協力して、オリンピックを開催した後に同じ都市で同じ施設を利用して、同じ組織委員会でパラリンピックを始めたことです。ドーピング検査、マーケティング、選手団やメディアの参加方法などオリンピックとまったく同じ大会運営で、参加する選手の競技力も一気に向上し、オリンピック競技に比べても見劣らない、素晴らしいパフォーマンスや見ごたえのあるプレーを見せてくれるようになりました。

パラリンピックの価値

1989年創設されたIPCは、当初から「Athletes Centered Organization」を謳い、2003年の総会で公表したIPCのビジョンでは「パラアスリートがスポーツにおける卓越した能力を発揮し、世界に刺激を与え興奮させることができるようにすること。」とアスリートを中心に置いています。

パラリンピックの一番の価値は、社会を変えていく力があることで、「失われた機能を数えるのではなく、残された機能を最大限に活かそう」という精神で、それぞれのスポーツにおいて限界に挑戦していくアスリートの姿に接すると、障がいがあることが不可能を意味するものではないということに気付くからだと思います。パラリンピックで見せるアスリートのパフォーマンスが、誰もが個性や能力を思う存分発揮して活躍できる社会の実現につながり、社会の中にあるバリアを減らしていくことの必要性や、発想の転換が必要であることにも気づかせてくれます。ひいては年齢、性別、人種の違い、つまり多様性を認め合ってお互いの人権を尊重し、そして支え合う社会に変えていこうという力がパラリンピックを通して呼び起こされるということでしょう。

<略歴>

昭和51年 3月	天理大学 (体育学部 体育学科) 卒
昭和51年 4月	大阪市身体障害者スポーツセンター勤務
昭和61年 4月	(財)日本身体障害者スポーツ協会、東京都障害者総合スポーツセンター勤務
平成16年 4月	日本パラリンピック委員会 事務局長 (兼任)
平成23年 7月	(財)日本障害者スポーツ協会、指導部長 企画情報部長 (兼任)、日本パラリンピック委員会事務局長 (兼任)
平成23年12月 1日	(公財)日本障害者スポーツ協会に改称
平成25年 7月	(公財)日本障がい者スポーツ協会 強化部長、日本パラリンピック委員会 事務局長 (兼任)
平成30年12月	(公財)日本障がい者スポーツ協会、日本パラリンピック委員会 参事

<社会活動>

国際大会	パラリンピック (夏9回、冬3回参加)
1984年	アメリカ ニューヨーク 水泳コーチ
1988年	韓国 ソウル 水泳監督
1992年	スペイン バルセロナ 水泳監督
2000年	豪州 シドニー 水泳監督
2004年	ギリシャ アテネ 日本選手団副団長
2006年	イタリア トリノ 日本選手団副団長
2008年	中国 北京 日本選手団副団長
2010年	カナダ バンクーバー 日本選手団団長
2012年	英国 ロンドン 日本選手団団長
2014年	ロシア ソチ 日本選手団副団長
2016年	ブラジル リオ 日本選手団副団長
2018年	韓国 平昌 日本選手団副団長

フェスピック (6回参加)	
1982年	香港 沙田 日本選手団 (水泳コーチ)
1999年	日本 神戸 日本選手団 (水泳監督)
1994年	中国 北京 日本選手団
1999年	タイ バンコク フェスピック連盟委員
2002年	韓国 釜山 フェスピック連盟委員
2006年	マレーシア KL フェスピック連盟委員

アジアパラゲームズ (6回参加)	
2009年	日本 東京 大会組織委員会 (ユース大会)
2010年	中国 広州 日本選手団副団長
2013年	マレーシア KL 視察 (ユース大会)
2014年	韓国 インチョン 日本選手団副団長
2017年	UAE ドバイ 日本選手団副団長 (ユース大会)
2018年	インドネシア ジャカルタ 日本選手団副団長

<その他>

国際ストークマンデビル車椅子競技大会 コーチ
 ロビンフッド大会 (イギリス 脳性まひ者) 日本選手団団長
 デフリンピック夏季大会 (聴覚障がい者)、(ブルガリア夏季大会、アメリカ冬季大会) 視察
 グローバルゲームズ (知的障がい者)、(チェコ大会、エクアドル大会) 日本選手団副団長

<特記事項>

- (現) 一般社団法人日本身体障害者水泳連盟 顧問
 - (元) フェスピック連盟スポーツ委員会 (1999-2006) 委員
 - (元) アジアパラリンピック委員会スポーツ委員会 委員
 - (現) 東京2020オリンピック・パラリンピック組織委員会 理事
 - (現) 一般社団法人スポーツ・コンプライアンス教育振興機構 理事
-

パラリンピックの理解

パラリンピックはオリンピックと異なり、いくつかの特色があります。競技によって参加できる障がい者が限定されたり、健常者と一緒に競技したり、競技用具によっては健常者の記録を上まったり、パラリンピックの基本理解とともに、皆さんの専門である障がい者の機能を最大限に生かすことにつなげていただければと思います。